

窓

「窓」に寄せる思い

「教育に寄せる心を開く小さな「窓」」
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。

福島県教育センター

どうして先生方は、こんなにも忙しいのか —働き方改革の先に—

次長兼総務管理部長 すがの あきと 菅野 昭人



19年6月の新聞記事によれば、経済協力開発機構（OECD）の最新の国際教員指導環境調査で、48の国・地域を対象に調査したところ、日本の中学校教員の週当たりの仕事時間は世界最長とのことでした。

先生方は、我々事務職とは違い超過勤務手当はありませんので、残業代を生活の当てにしているという理由は当たりません。では、どうして先生方はこんなにも忙しいのでしょうか。学校の先生は、どの教科の先生も一国一城の主であり、お互いを先生と呼び尊敬していると思われまます。先生方の責任感もここから来ているのでしょうか。また、真面目な気質ゆえに完璧主義者が多いようにも思われまます。

働き方改革の本丸は、業務を効率化し、生産性の高い職場をつくることであり、残業の解消だけが、働き方改革なのではないことは言うまでもありませんが、「ワーク・ライフ・バランス」の観点からも残業はないに越したことはありません。そこで今回は当センターのある教科の教職員の在庁時間数から垣間見えたことについて少し述べたいと思います。

私は立場上、当センターの在庁（庁）時間記録簿を管理し、月例報告などを行っています。ある時、ある教科（英語科）の教職員の在庁時間数が他の教科の在庁時間数よりも少ないということに気が付きました。この教科の教職員が業務の手を抜いているのかというかと断じてそのようなことはありません。むしろ当センター内の担当教科の業務以外にも業務があり、決して余裕があるとは言えませんが、この教科の研修を受講した方々からも不満が寄せられたということは聞いたことがありません。

では、このことは何を意味するのでしょうか。

ここからは私の推測ですが、英語科の教職員は、英語を学びながら欧米の働き方に対する思考も吸収

し、効率性や生産性を重んじる意識が浸透して根付いたのではないかと思います。

相手を付度し思いやる気持ちを持つ日本人的思考はとても素晴らしいことですが、このような意識はややもすると隣の席の人が残業しているから自分も職場に残っているということになりかねません。

また、仕事は切りがないという感覚を持ったことがある方もいらっしゃるかもしれません。それは、いくらでも仕事はある。とか、今の仕事が終わったら残業をしてまで来週の仕事の準備をする。といった具合です。これは非常に日本的です。欧米であれば、今やらなくて済むものは今はやらないという判断をするでしょう。チームやグループを含めた仕事をする単位組織として、（今は）やらないと決定する判断力や決断力が重要です。そのためには、日頃のコミュニケーション（情報の共有）を大切にして、やらなくてもよい仕事があれば、その判断を共有しながら進めることが必要です。

これまでは遅くまで職場に残って仕事をしていることが周囲や上層部、あるいは人事当局から頑張っていると思われていた時代、残業をして時間をかけて成果を出した時代でしたが、これからは勤務時間内に成果を出す時代がやってきます。

それには残業は、組織としても「不要」、個人としても「不要」であると管理職を含めた組織に働く一人一人が自分事として捉えることが重要であり、そう認識されることが当たり前になったとき、はじめて働き方改革が結実したと言えるでしょう。

私は、働き方改革の先に、仕事以外の時間を有効に活用して、様々な発想と余裕を持ちながら児童や生徒に対して向き合える教職員が増えるとともに、教職員のストレスが低減し、不祥事が撲滅する日が来ることを切に願っています。

本誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

編集発行： 福島県教育センター 〒960-0101 福島市瀬上町字五月田16番地
TEL 024-553-3141 (代表) FAX 024-554-1588
URL <https://center.fcs.ed.jp/> E-mail center@fcs.ed.jp

いよいよ4月から、 小学校プログラミング教育がスタート!!

でも、何をすればいいの？

情報教育チームで取り組んだ
プログラミング教育の授業実践を紹介します。

こんな授業を実践しました① ～ プログラミングツールを用いたプログラミング体験の授業 ～

まずは、児童が**プログラミングツールの操作に慣れること**が大切です。そこで、各学年でプログラミング体験の授業を行いました。その一部を紹介します。

第6学年「修学旅行で訪れた場所を紹介する」

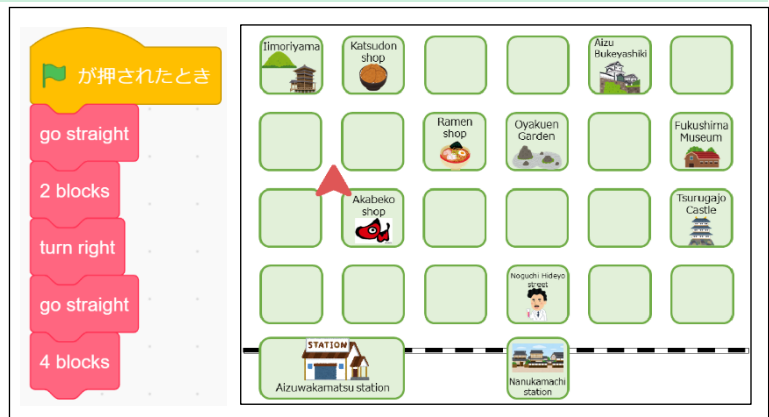
修学旅行で訪れた会津若松市の観光名所を効果的に紹介するプログラムを考えさせます。児童が、画面を確認しながら、自分の意図した動きになるように、プログラムを見直したり、修正したりして、**訪れた場所を分かりやすく紹介するためのプログラム**を考えさせることができました。



こんな授業を実践しました② ～ プログラミングを通じた外国語活動の授業 ～

プログラミングツールの操作に慣れたら、**プログラミングの楽しさや面白さを味わわせましょう!**

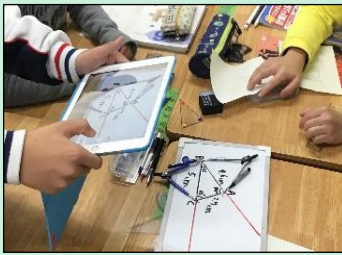
外国語活動の道案内の単元で、プログラミングを取り入れた授業を行いました。「go straight」「turn left」「turn right」の3つの命令を、プログラミングツールの中で使える新たなブロックとして作成し、道案内で使えるようにしました。3つのブロックを使って案内する道順のプログラムを作ることができ、**並べたブロックのとおり**に相手に伝えれば道案内になります。正しい道案内ができたかシミュレーションで確かめ、その後、外国の人役と案内役のペアで道案内をする活動を行いました。



こんな授業を実践しました③ ～ プログラミング的思考を生かした問題解決の授業 ～

第6学年算数科「拡大図と縮図」の単元で、コンピュータを使わない**プログラミング的思考を生かした**授業を行いました。

① 三角形を2倍に拡大する方法を、各グループで考える。



タブレット端末を使い拡大する手順を記録

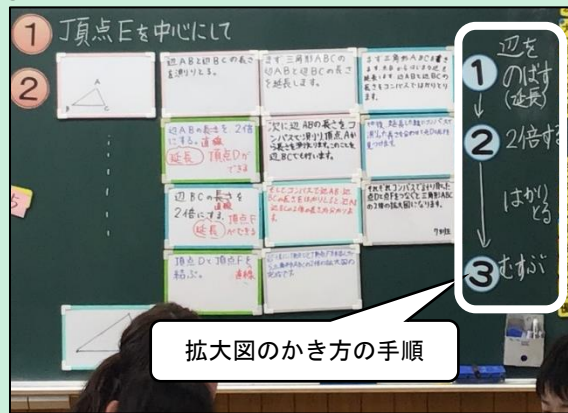


各グループで考えたかき方を発表



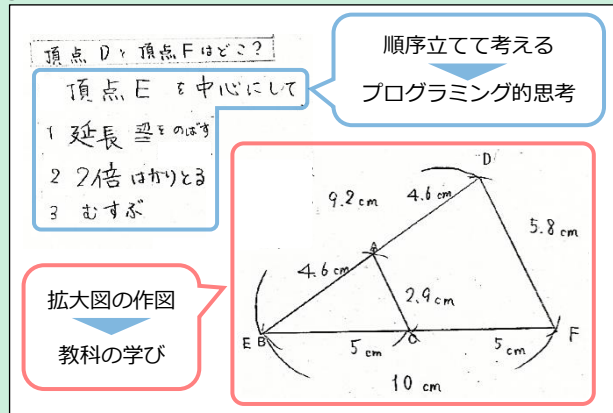
拡大図をかくための手順を言語化

② かき方の手順を全体で共有する。



各グループが書いた説明文を黒板に掲示し、教員と児童が対話しながらそれらを見比べ、共通する言葉を見だし、手順をまとめました。

③ 拡大図を各自が作図できるか確認する。



拡大図をかく手順を考えさせること（**プログラミング的思考**）で、作図の仕方を理解させること（**教科の学び**）ができました。

小学校プログラミング教育を円滑に進めるために

Step 3 **プログラミング的思考を生かした授業**

いろいろな教科でプログラミング的思考を育てましょう！

Step 2 **プログラミングを取り入れた授業**

プログラミングの楽しさや面白さを味わわせましょう！

Step 1 **プログラミング体験の授業**

プログラミングツールに慣れさせましょう！

まずは、先生方自身がプログラミングを体験しましょう！

実際にプログラミングを体験した先生方からは、「**思っていたよりも簡単**でびっくりした。もっと難しいかと思った」「総合の発表に使ったら**楽しそう**」という感想も聞かれ、プログラミング教育への不安感や抵抗感が軽減され、プログラミングの授業を行うことができました。

まずは、**先生方自身がプログラミングを体験することが大切**です。

当センターでは、プログラミング教育の最新情報や研究協力校で利用した教材を、Web サイトを通じて発信しますので、ご確認ください。

☆☆教育相談チームからの発信☆☆

「生徒指導上の諸課題に関する調査」結果から見えるもの ～よりよい人間関係を育む指導について～

今回は、平成28年度～平成30年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査について」（文部科学省）の結果から見える課題への対応について、児童生徒の「人間関係づくり」の視点から提案します。

県内と全国の調査結果

いじめの認知件数 (1,000人当たりの認知件数)		
	県内	全国
28年度	2,046 (9.9)	323,143 (23.9)
29年度	4,883 (24.3)	414,378 (30.9)
30年度	6,815 (34.7)	543,933 (40.9)

暴力行為の発生件数 (1,000人当たりの発生件数)		
	県内	全国
28年度	414 (2.0)	59,444 (4.4)
29年度	502 (2.5)	63,325 (4.8)
30年度	576 (3.0)	72,940 (5.5)

不登校の小・中学生 (1,000人当たりの出現数)		
	県内	全国
28年度	1,868 (12.7)	133,683 (13.5)
29年度	1,885 (13.2)	144,031 (14.7)
30年度	2,115 (15.1)	164,528 (16.9)

不登校の高校生 (1,000人当たりの出現数)		
	県内	全国
28年度	485 (9.1)	48,565 (14.7)
29年度	442 (8.5)	49,643 (15.1)
30年度	381 (7.5)	52,723 (16.3)

学校の積極的な認知が進んだことで、県内のいじめの認知件数は増加しているんだ。冷やかしかからかいといった「言葉によるいじめ」が、認知件数の半数以上を占めていることも分かっているよ。

不登校の児童生徒数は小・中学校とも、学年が上がるとともに増加しているんだ。小学生は216人に1人、中学生は29人に1人の割合なんだよ。

暴力行為は、小学校で急増している傾向がみられるんだ。特に、対教師暴力については全体の82.5%が小学校で起こっているんだ。このような課題に対して、何をすればよいか？

問題行動や不登校等に対応するためには、開発的・予防的な教育相談により、児童生徒のよりよい人間関係を育むことが大切です。

なるほど。でも、開発的・予防的な教育相談って、どんなことをしたらよいのだろう？何か資料はないかな？

よりよい人間関係を育むための、教育相談的な手法を使った指導案等が当センターWebサイトに載っています。

教育相談チームでは、「よりよい人間関係を育む指導援助の在り方ー対話的な学びを支える学級集団づくりを通してー」について研究してきました。以下の研究実践の際に使用した資料が、当センターWebサイト (<https://center.fcs.ed.jp>)に「人間関係づくりに役立つ資料」として掲載されていますのでご活用ください。

1年生指導案① 「ココロトーク」

「ココロトーク」を使った活動を通して、互いのことを知ったり、友達へのよりよい関わり方を練習したりすることができます。

【構成的グループエンカウンター
ソーシャルスキルトレーニング】

1年生指導案② 「きもちのよいあいさつ」

「きもちのよいあいさつ」はどんなあいさつかを考え、あいさつの仕方を練習したり、進んであいさつしたりすることができます。

【ソーシャルスキルトレーニング】

2年生指導案① 「ありがとうビンゴ」

「ありがとうビンゴ」やソーシャルスキルトレーニングを通して、友達への感謝の気持ちの伝え方を理解することができます。

【ソーシャルスキルトレーニング】

3年生指導案① 「ふわふわ言葉とちくちく言葉」Part1

普段使っている言葉を「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」に分類することを通して、今後の友達に対するよりよい言葉の使い方を考えることができる。

【構成的グループエンカウンター】

3年生指導案② 「ふわふわ言葉とちくちく言葉」Part2

「ふわふわ言葉」を使うことのよさに気づき、場面に応じた「ふわふわ言葉」での言葉のかけ方を練習することができる。

【ソーシャルスキルトレーニング】

5年生指導案① 「こんなときどう言う？」

三つの自己表現の仕方について知り、自分も相手も大切にしたい、よりよい自己表現の仕方を考えることができる。

【アサーショントレーニング】

5年生指導案② 「いいとこ三面鏡」

肯定的な印象を伝え合うことで他者理解や自己理解を深め、個々の承認感や自己肯定感を高める。 【構成的グループエンカウンター】

Webサイトで指導案や資料、振り返りカードがそのままダウンロードできます。すぐに活用できて便利です。他にも校種に応じた小学校・中学校・高等学校別の資料も掲載されていますよ。

ICTを活用した保健体育科の授業づくり講座

11月6日(水)・7日(木)に実施した体育・保健体育科の専門研修「ICTを活用した保健体育科の授業づくり講座」について紹介します。

<目的>

ICT機器を活用した保健体育の実践事例から、効果的な活用場面とその方法について学ぶとともに、タブレットPC等の操作方法を理解し、保健・体育それぞれの領域・科目の授業で活用できる実践力の向上を図る。

保健体育科におけるICTの効果的な活用事例

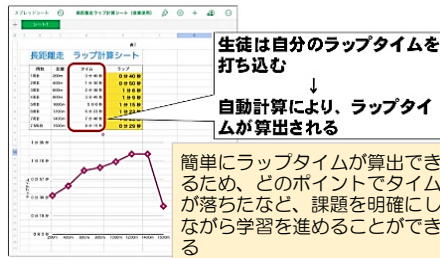
2名の講師によるICTを活用した実践例紹介

表計算アプリを活用した実践



福島第一中学校 主幹教諭 富田宏幸先生

陸上競技・長距離走



球技・バレーボール



福島大学附属中学校 教諭 坂内俊介先生

無料通話アプリを活用した実践

体育理論・運動やスポーツの多様性



プロスポーツ選手とテレビ画面を通して対話することにより、自分が知らなかったスポーツの魅力に気付く

体育向けアプリを活用した実践

陸上競技・走り高跳び



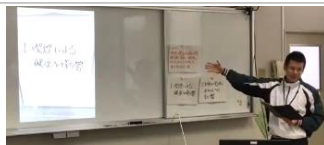
技能を習得しさらに深める際に、自分の動きと相手の動きを2画面で比較し、動きの違いを視覚的に捉える

保健の授業におけるICT活用法

事前課題の学習指導案を基にICTを活用した授業構想シートを作成し、保健の模擬授業を実施



「交通事故の危険予測と回避」
ホワイトボードに交通事故を予測させる画像を提示し、予想される危険について生徒に記入させる



「喫煙と健康」
班ごとに調べた内容をタブレット端末で撮影し、発表資料として提示する

【参加者の感想】

授業を受ける立場でICT活用の有効性を実感することができた。数値や動画をうまく活用して、今後の授業に生かしていきたい。

ICTをどの場面で活用するかという授業デザインが重要だと感じた。しっかりとICTを使うねらいを考慮しなければよい授業にはならないと感じた。

小・中・高等学校の様々な視点で模擬授業について協議できたので、これまで自分にはない新しい視点での授業スタイルが確立できると感じた。よりよい実践につなげていきたい。

体育実技におけるタブレットPCの活用法

様々な単元でのタブレットPC活用法の紹介と今後のICT活用計画



「器械運動：マット運動」遅延再生



「器械運動：マット運動」スロー再生



「器械運動：跳び箱運動」モデル提示



「ダンス」モデル提示

【参加者の感想】

実践例を聞いたり、実際に操作したりすることで、自分の授業でも活用できるものがたくさんあると感じた。早速活用するとともに学校の先生方に還元していきたい。

タブレット活用の幅が広がりました。アプリや機能を駆使して、よりよい授業に改善していきたい。

小学校理科におけるプログラミング体験



いよいよ2020年から実施される小学校でのプログラミング教育について、教育センターの小学校理科専門講座で、研修者の先生方に体験していただいた内容を紹介します。

小学校プログラミング教育のねらい

- 1 ・「プログラミング的思考」を育む
- 2 ・プログラムの働きやよさ、
情報社会がコンピュータをはじめとする
情報技術によって支えられていることなどに気付く
・身近な問題の解決に主体的に取り組む態度や
コンピュータ等を上手に活用して
よりよい社会を築いていこうとする態度などを育む
- 3 ・各教科等の内容を指導する中で実施する場合には、
教科等での学びをより確実なものとする

新学習指導要領（プログラミング教育関係抜粋）

<理科>

プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には、児童の負担に配慮しつつ、例えば第2の各学年の内容の〔第6学年〕の「A物質・エネルギー」の(4)における**電気の性質や働きを利用した道具があることを捉える学習**など、与えた条件に応じて動作していることを考察し、更に条件を変えることにより、動作が変化することについて考える場面で取り扱うものとする。

<算数>

<総合的な学習の時間>

今年度の小学校理科専門研修では、はじめに、小学校プログラミング教育の手引きをもとに、導入に至る背景やねらい、育むべき資質・能力について当センター指導主事が講義しました。次に、講師として福島大学附属小学校でプログラミングを実践している先生においでいただき、授業の具体的な事例を紹介してもらいました。



最後に、事例紹介の中で使われたプログラミング教材「WeDo2.0」を実際に使い、研修者の先生方にプログラミングの体験をしてもらいました。

〔研修者の感想〕

思った以上にプログラミング操作が簡単で、子ども達の方がどんどん進んで活動していきそうだと思った。

「実際にやってみる」ことの価値を改めて実感。大事なこと、方向性も見えてきた。



「小学校プログラミング教育のねらい」にもあるように、小学校では児童の「プログラミング的思考」を育むことが大切です。これは、理科教育だけでなく、様々な教科の学びの中にもプログラミング的思考につながる学習内容が含まれています。それらを見いだし、各学校の教育課程に位置付け、コンピュータを活用したプログラミングの体験と、コンピュータを使わずにプログラミング的思考を育成する学習活動をうまく組み合わせながら、計画的・系統的に実践していくことが求められます。当センターでは、次年度も小学校理科の基本研修や専門研修でプログラミング教育についての研修を実施し、さらなる内容の充実に努めていきたいと思っております。

音楽科 専門研修講座 紹介♪

グーテンモーラゲン！みなさん、こんにちは。
今年生誕 250 年を迎えたベートーヴェンです。
2020 年、教育センターで行われる音楽の専門
研修講座について紹介します。



合唱

6月25日

多方面で大活躍中の合唱指導者である田中安茂先生をお招きし、授業で生かせる合唱指導について学びます。

著書や DVD で紹介されている田中先生の指導に直接触れられるまたとないチャンスです。

実際に田中先生の指揮で合唱指導を受けてみましょう！



伝統音楽

10月30日

「日本一わかりやすい！」と評判の、新潟大学教授、伊野義博先生による伝統音楽講座があります。日本の伝統音楽の授業を楽しくしたい！という先生にとって、大変わかりやすく、そして楽しく学ぶことができます。今年は1日での開催です。



民族音楽

10月19日～10月20日

諸外国の音楽の中でも、器楽を中心とした講座です。今回の目玉はなんといっても、ドラムサークルです。ドラムサークルを体験することは、ストレス軽減や機敏さ、免疫力の向上に役立つことが研究で実証されており、生徒がよりよい人間関係の在り方を体験することができることなどから、近年学校教育の中で取り上げられることが多くなってきています。

今回はドラムサークルファシリテーターの方をお招きし、その体験を通して「聴き合う力」や「協力して演奏する力」、「多様性の理解」等の力を育むことができます。

また、普段は目にすることのないような民族楽器に触れ、楽器づくりや音楽づくりを楽しめるような講座も予定しています。



たくさんのご参加、お待ちしております！

令和元年度 福島県教育研究発表会



「明日の 福島 の 教育をつくる」をスローガンに、福島県教育研究発表会が11月28日(木)に当センターにおいて開催されました。

県内の小・中・高等学校における優れた研究実践や当センターのチーム研究及び長期研究員による研究、合わせて18の研究発表が行われました。また、「『深い学び』の実現に向けて」の演題で、国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 山森 光陽 氏の御講演が行われました。

おかげさまで、御来賓を含め233名の皆様に御参加いただき、無事終了することができました。御後援をいただきました福島県小・中学校長会、福島県高等学校長協会、御臨席を賜りました来賓の皆様、そして、御参加いただきました県内外の教職員及び学生の皆様に、厚くお礼申し上げます。来年度も更り多き研究発表会となるように準備を進めております。ぜひ多くの皆様の御参加をお待ちしております。

○ 来年度の予定は次のとおりです。

日 時：令和2年11月26日(木) 9時50分～

内 容：各種研究発表及び講演

来年度の研修講座から

小学校外国語活動・外国語科講座を県内各地区で開催します

小学校において令和2年度より全面実施となる学習指導要領では、小学校第5学年から「読む・書く」を加えた外国語が教科として導入されます。それにともない、学習指導要領の目標を達成するための効果的な言語活動を展開し、外国語を運用するための児童の思考力・判断力・表現力を着実に向上させることが求められています。そのため、教師は教科の目標や指導方法について知識や技能を深めることが必須となります。

当センターでは令和2年度より県内各地区で行う現地研修として、これまでの「小学校理科実験基礎講座」「《改訂》運動身体づくりプログラム講座」に加え、「**小学校外国語活動・外国語科講座**」を開催します。本県のふくしま小学校外国語教育推進プランに即して、外国語教育に関する最新の情報を提供するとともに、教科指導法の知識や技能について、体験的に理解を深め、実践的に指導技能を学ぶことができる研修を通じて、先生方の授業づくりをサポートしたいと考えております。

時期、場所等詳細については市町村教育委員会を通じて案内文書にてお伝えいたします。ぜひご参ください。

各種専門研修講座を開講しています

当センターでは、学校現場における先生方の授業力向上や様々な教育課題への対応に役立つ専門研修を行っております。専門研修は希望制で、申し込みは市町村立学校については4月17日、県立学校については5月1日迄となっております。

令和2年度は、教科教育系(29講座)・教育相談系(3講座)・情報教育系(5講座)・教科外教育系(5講座)の全42講座の開講を予定しております。なお、新規に「**中学校数学科「数学的に考える資質・能力を育む授業づくり」講座**」「**総合的な言語活動で伸ばすスピーキング・ライティング指導講座**」「**日本伝統音楽のよさを味わう授業づくり講座**」「**実践力を高める技術科講座(情報・エネルギー変換編)**」の4講座を開講いたします。

また、専門研修の他に、土日を利用した自主講座として、「美術鑑賞入門講座」「基礎から学ぶ表計算入門講座」「子どものためのロボットワークショップ」「先生のための図画工作・美術鑑賞指導法講座」を開設しております。ぜひお越しください。

福島県教育センターからのお知らせ

当センター西側の河川改修により、当センターの駐車スペースとして使わせていただいていた河川敷地が使用できなくなりました。これまでと比べ駐車可能台数が少なくなりますので、乗り合わせや公共交通機関の利用に御協力ください。

